

令和5年度 第2回技術研修会のご案内

日 時	令和5年9月8日(金) 13:30～16:30
会 場	アバンセホール(佐賀県立生涯学習センター) (佐賀市天神3丁目2-11 TEL 0952-26-0011)
主 催	公益財団法人 佐賀県建設技術支援機構
後 援	佐賀県、(一社)佐賀県建設業協会、(一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
テ ー マ	「低平地研究」
研修項目	(1) 13:40～15:00 「我が国の新村計画にみる集住地形態の研究：有明海沿岸を中心に」 佐賀大学理工学部理工学科(都市工学部門) 教授 後藤 隆太郎 氏 <p>我が国の戦後計画村として八郎潟干拓にともなう新村計画が広く知られているが、有明海沿岸でも有明、横島、金剛干拓など、多くの国営干拓等において入植地が建設されている。それらは成立してすでに50～70年以上が経過し、現況を踏まえつつその特質を明らかにすることは、新村計画の経験の検証に加え、近年の集落移転計画等に関する知見としても有効であろう。</p> <p>今回の研究報告では、佐賀大等で実施した調査研究をもとに自然環境や生業と関わる村の形態やそのあり方について解説したい。</p>
	(2) 15:10～16:30 「感潮域の水環境について～筑後川感潮域をケーススタディとして～」 佐賀大学理工学部理工学科(都市工学部門) 准教授 ウォンタナーズントーン ナルモン 氏 <p>「感潮域」は一般的に馴染みのない用語かもしれないが、河川の河口から潮汐の変動によって水位が変動し、河川の淡水から海の海水へと移り変わる区域を示す。感潮域の水環境の変化は低平地での暮らし及び経済活動に様々な影響を与えます。本講演では、感潮域の水環境の特性を概説し、ケーススタディとして筑後川感潮域における水環境の現状及び今後の課題について解説し、そして、感潮域の水環境の保全対策に関する事例を紹介する。</p>
対 象 者	地方公共団体等職員、建設事業関係者(県内優先)、一般の方(大学生以上)
定 員	300名
参 加 料	無 料
申込方法	当機構のホームページ(https://www.sagacat.or.jp/gijyutsukensyuu.html)よりお申し込みください。1社につき3名まで受け付けます。 『研修情報』→『技術研修会』→『令和5年度第2回技術研修会申込』をクリック!
申込期間	令和5年8月16日(水)14:00～令和5年8月31日(木)17:00 (定員になり次第締め切り。定員に満たない場合は次の期間に追加募集を実施。) 令和5年9月1日(金)14:00～令和5年9月6日(水)17:00 予定
問合せ先	(公財)佐賀県建設技術支援機構 技術部 企画情報課 TEL 0952-97-5596
そ の 他	(1)車でご来場される場合は、会場敷地内の駐車場をご利用下さい。 (2)座席は全席指定席となります。

※(一社)全国土木施工管理技士会連合会CPDS(形態コード101-2、プログラム番号827493、3ユニット)
(一社)建設コンサルタンツ協会CPD(申請中)